

令和5年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和6年5月30日

ヤマザキ動物専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	5-21 卒業生・社会人.....	27
基準1 教育理念・目的・育成人材像	9	基準6 教育環境	28
1-1 理念・目的・育成人材像.....	10	6-22 施設・設備等.....	28
基準2 学校運営	11	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	29
2-2 運営方針.....	12	6-24 防災・安全管理.....	30
2-3 事業計画.....	12	基準7 学生の募集と受入れ	31
2-4 運営組織.....	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	31
2-5 人事・給与制度.....	14	7-26 入学選考.....	32
2-6 意思決定システム.....	14	7-27 学納金.....	32
2-7 情報システム.....	15	基準8 財務	33
基準3 教育活動	15	8-28 財務基盤.....	33
3-8 目標の設定.....	16	8-29 予算・収支計画.....	33
3-9 教育方法・評価等.....	16	8-30 監査.....	34
3-10 成績評価・単位認定等.....	18	8-31 財務情報の公開.....	34
3-11 資格・免許の取得の指導體制.....	19	基準9 法令等の遵守	34
3-12 教員・教員組織.....	20	9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	35
基準4 学修成果	20	9-33 個人情報保護.....	35
4-13 就職率.....	21	9-34 学校評価.....	35
4-14 資格・免許の取得率.....	22	9-35 教育情報の公開.....	36
4-15 卒業生の社会的評価.....	22	基準10 社会貢献・地域貢献	36
基準5 学生支援	23	10-36 社会貢献・地域貢献.....	36
5-16 就職等進路.....	23	10-37 ボランティア活動.....	37
5-17 中途退学への対応.....	24		
5-18 学生相談.....	25		
5-19 学生生活.....	25		
5-20 保護者との連携.....	26		

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標

(1) 建学の精神

「生命への畏敬」

「職業人としての自立」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限らない愛を注ぐ”この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

(2) 教育理念

「生命を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

(3) 3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

1. 本校の建学の精神及び教育理念に共感する者。
2. 動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生社会を目指す者。
3. 動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。
4. 愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にしている者。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目(選択科目を含む)の3科目群からカリキュラムを構成する。

1. 教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
2. 専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
3. 専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

ディプロマ・ポリシー

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士(文化・教養専門課程)の称号を授与する。

1. 本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
2. 動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
3. 人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

令和5年度重点目標

① 学生の受入

ア. 入学者の受入方針と方法

アドミッション・ポリシーに基づき、建学の精神及び教育理念に共感し、人と動物の架け橋になる者を受け入れる。総合型選抜試験、学校推薦型選抜試験(指定校制・公募制)、一般選抜試験、社会人選抜試験による。

イ. 学修支援

入学前教育として、全ての選抜試験の合格者を対象に、入学前ドリルを配布し高校までの学修の復習を行い、入学後提出させ添削を行う。これにより入学前の学修意欲の向上ならびに授業以外での自主的な学習の定着を図る。

また、在校生を対象に愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のため、段階的な対策を講じていく。1年次は基礎学力の定着を目標とし、授業内小テストや模擬試験を実施し、不得意分野を特定し克服できるようにする。2年次では専門分野の学修を深めるとともに、定期的な模擬試験を実施し、1年次に引き続き不得意分野の克服に努める。3年次では定期的な模擬試験の実施、対策講座の設置の他、オンラインでの教材提供など、授業内だけでなく授業以外での自主的な学習の指導体制を整える。また、試験対策の掲示板を設置し全学年へ情報を提供すると共に、アッセンブリーアワーにて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行う。

ウ. 特待生制度・奨学金制度

本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生等に奨学金を給付する。

エ. キャリア支援

きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように学生の立場に立って相談・指導を実施する。全卒業生に対して80%以上の就職、希望者に対しては95%以上の就職実績を目標とし、達成し続けている。これを継続させるために、1年次からの動物看護総合実習において就職活動前に併設施設や学外の動物病院等で実践的な研修を行うことで、本人が自分に適した職に就けるよう指導する。また、キャリア支援センターによる正科目「キャリアマネジメント」をより一層強化する。さらに、One Drive 等を活用し、求人票保存・学生配信の合理化に努める。

オ. 教育環境の再整備

年次計画で行っている渋谷キャンパス2号館のエアコン・換気設備のフロア単位での入替交換を継続する他、学生トイレの改修等について計画的に行い、教育環境の向上を図る。

② 教育課程

ア. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物愛護の精神に則り、動物看護中心に、動物美容、トレーニングの知識と技術を身に付けた付加価値の高い人材を養成する。

カリキュラム・ポリシーは、次のとおりである。

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目(選択科目を含む)の3科目群からカリキュラムを構成する。

1. 教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
2. 専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。

3. 専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

愛玩動物看護学科では「愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた教育内容」に本校独自の科目を加えたカリキュラムを採用している。

愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた科目を専門教育科目(専門基礎科目・専門科目)として対応し、本校独自科目は教養教育科目、専門科目に配している。動物看護を中心に「コンパニオンアニマルケア実習」及び「ドッグトレーニング実習」を配し、総合的な教育を行う。また、事実上の就職対策や愛玩動物看護師国家試験対策である「キャリアマネジメント」及び「動物看護学総合(国家試験対策講座)」を実施し、就職内定率及び国家試験合格率の向上に努める。

ディプロマ・ポリシーは次のとおりである。

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士(文化・教養専門課程)の称号を授与する。

1. 本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
2. 動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
3. 人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

また、教育課程編成委員会を年2回以上開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告することでPDCAサイクルを構築し、教育課程の充実を図る。

イ. カリキュラム

「愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた教育内容」に本校独自の科目を加えたカリキュラムを採用している。

ウ. 成績評価と授業評価

成績評価については、GPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理を実施し、修学度等の調査を効率的に実施する。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、講師自身が授業の励みとするとともに、授業の改善に活かしている。令和2年度よりオンラインでの授業評価アンケートへと変更しており、今後もペーパーレス化を進める。

③ FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員の能力・資質向上に努める。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検・評価報告書としてまとめ、公表する。

④ 学生サービス

ア. 学生相談

クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応するほか、必要に応じて保護者と連携する。必要に応じ、スクールカウンセラーを紹介する。

イ. 奨学金・金融機関融資紹介

専門学校では大学と同様に、建学の精神に則り、向学心に富み、学力・技能に優れ、将来動物看護に関する分野の指導者をめざす学生の人材育成を目的とする奨学金制度が設けられている。同奨学金については家計急変者についても対象となり卒業間際の経済的救済にも道が開けている。また、日本学生支援機構の奨学金に加え、提携による融資先である株式会社ジャックス、株式会社オリエントコーポレーションへの紹介をしている。これらを学生サービスの一環として、教職員の連携を図りながら対応する。

ウ. 高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

支援対象となる大学等の要件(機関要件)に対応している。シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策定・公表を実施する。

⑤ 広報活動の強化

ア. 安定的な入学者の確保

18歳人口が減少する中、募集定員の充足は、最重要課題であり、本校の特色を広く広報するため、一層の努力と工夫が求められる。本校は、入試広報課を中心とし、高等学校への訪問、進路ガイダンスへの参画、ホームページ、進学情報サイトの充実、オープンキャンパス内容の改善、受験生の進学志向の変化、競合他校の分析、志願方法、入学試験の実施方法などを総合的に検証し、同分野他校との差別化を図り、広報活動を実施する。

イ. 令和5年度学生募集

高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパスに全教職員が協力し、本校の特色について積極的な説明を強化する。

さらに、オープンキャンパスでは、個別相談の時間を設けることで受験生及び保護者の個々のニーズに丁寧に対応し、本校の理解度を高め、他校とのより一層の差別化を図ることに重点を置く。

また、社会状況によるオンラインでの対応を要する募集活動において、ホームページの充実度を高め、SNS や動画配信を積極的に活用するとともに、オンライン型の説明会や個別相談の実施を継続する。

⑥ 退学者の低減

退学率の低減についてはクラスアドバイザー(担任)、アシスタントアドバイザー(副担任)及び学年主任を中心として個人相談等様々な努力を行っているが、昨年度においては退学率が前年度に比べ増加した。そのため、今後も各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、退学率低減を目指す。

⑦ 自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン(文部科学省生涯学習政策局)」に基づき当校教職員全体で実施しており、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んでいる。

学校関係者評価に関しては年1回以上実施し、学校関係者評価委員会より評価内容を校長に報告する。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告し、PDCAのサイクルを回す。

第三者評価については、愛玩動物看護学科が完成年度を迎えていないため未実施であるが、今後、外部評価に耐えうる学校として一層の質の向上を図る。

⑧ 地域連携等

渋谷区の開催する防災イベント、福祉行事及びハチ公生誕 100 周年企画展の協力をする。また、渋谷区と「災害時における帰宅困難者支援に関する協定書」を締結しており、体育館であるレインボーホールは災害時の帰宅困難者支援施設として利用される。さらに、近隣2社と合同で行う近隣清掃ボランティア活動を継続する。

重点目標・計画の達成状況

① 学生の受け入れ

ア. 入学者の受け入れ方針と方法

愛玩動物看護学科の養成する人材像に基づき、以下のアドミッション・ポリシーを掲げ、総合型選抜試験、学校推薦型選抜試験(指定校制・公募制)、一般選抜試験、社会人選抜試験により選抜を実施し、人と動物の架け橋となる者を受け入れた。

イ. 学修支援

全ての合格者を対象に入学前教育として入学前ドリルを配布し、高校までの学修の復習を行い、入学後提出させ添削を行うことで、入学前の学修意欲の向上と授業以外での自主的な学習の定着を図った。

在校生を対象に愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のため、段階的な対策を講じた。1年次は基礎学力の定着を目標とし、授業内小テストや模擬試験を実施し、不得意分野を特定して克服できるようにした。2年次では専門分野の学修を深めると共に、定期的な模擬試験を実施し、1年次に引き続き不得意分野の克服に努めた。また、「アッセンブリーアワー」にて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行った。3年次では定期的な模擬試験の実施の他、対策講座の設置やオンラインでの教材提供など、学内だけでなく家庭での学習指導体制を整えた。また、試験対策の掲示板を設置し全学年へ情報を提供すると共に、アッセンブリーアワーにて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行った。その結果、愛玩動物看護師国家試験の在学者合格率は92.6%となり、関東地区の動物系専門学校の中でも1位となった。

ウ. 特待生制度・奨学金制度・教育支援金制度

本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生及び家計急変者等に奨学金を給付している。本年度は特待生制度9名、山崎良壽記念奨学金制度3名が該当した。また、日本学生支援機構の奨学金の紹介をした。

エ. キャリア支援

きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるよう、学生の立場に立って相談・指導を実施した。目標としている就職率は、全卒業生に対して80%以上、就職希望者に対して95%以上に定めている。その結果、本年度は、全卒業生に対し84%、就職希望者に対し98%という高い実績を継続達成できた。なお、文部科学省の「就職率」の取り扱いについての通知に従い、進学、自営業、家事手伝い、資格取得等の数値は含めていない。

オ. 教育環境の再整備

教育環境整備として、顕微鏡の新機種への入れ替え、シリンジポンプの増設及び動物採血モデルを導入し、動物看護実習の充実を図った。年次計画で行っていた空調設備交換については渋谷キャンパス2号館A棟1階を実施し、これによりA棟全館の交換が終了した。また、本年度より年次計画で学生トイレの改修を

開始し、学修環境の向上を図った。

② 教育課程

ア. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物看護を中心に幅広い知識と技術を身に付けた即戦力をもつ人材の養成に努めた。また、教育課程編成委員会を年2回開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映した。同委員会の結果は同委員会に報告され、PDCAのサイクルを構築し、教育課程の充実を図った。

イ. カリキュラム

令和元年6月に愛玩動物看護師法が制定されたことに伴い、愛玩動物看護師国家試験に対応するカリキュラムを採用している。愛玩動物看護学科のカリキュラムについては、農林水産省・環境省(以下、主務省)が指定する「大学及び養成所において履修すべき科目」に基づき、愛玩動物看護師の養成に必要な科目に対応した教育を行った。

ウ. 成績評価と授業評価

成績評価については、GPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理を導入しており、修学度等の調査を効率的に実施した。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、講師自身が授業の励みとすると共に、授業の改善に活かした。実施方法については、オンラインでの授業評価アンケートとし、ペーパーレス化を図った。

エ. 授業形態について

令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症が5類に移行となったため、対面による授業を実施した。学生の健康維持のため、アルコール等による手指衛生管理など、感染症の蔓延防止に努めた。

③ FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員の能力・資質向上に努めた。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検評価報告書としてまとめ、公表した。

④ 学生サービス

ア. 学生相談

クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応した。必要に応じて行う保護者との面談方法も、対面のみならずオンラインでの面談の機会を保証することで、保護者との連携も欠かすことなく学生支援を行った。また、配慮の必要な学生については、教務委員会や各実習対応者も含め連携して対応し、必要に応じて、スクールカウンセラーを紹介した。

イ. 高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

支援対象となる大学等の要件(機関要件)に対応し、シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策

定・公表をした。

⑤ 広報活動の強化

ア. 安定的な入学者の確保

東京都内で愛玩動物看護師養成所となっている専門学校10校13学科の中で、本校の特色を多くの出願検討者に認知してもらえる機会を与えるため、年間14回の来校型オープンキャンパスと、オンライン型オープンキャンパス8回を実施し、入学定員120名を確保した。

18歳人口の減少という課題に対する取り組みについては、高校生という従来の顧客層にとらわれず、大学生や社会人などターゲットを広く設定し、リカレント教育を打ち出す広報を実施した。これにより既卒者の志願者が増加し、入学数に占める既卒者の割合は前年度より8%増加した。

イ. 令和6年度学生募集

令和6年度学生募集では、来校型イベントを中心に、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談を実施し、受験対象者との接触機会を広く創出し、高校ガイダンス・会場ガイダンスや高校訪問のエリアを拡大した。また、WEB広告やSNS広告を活用し新規獲得に努めた結果、全入学数における一都三県以外の入学数が占める割合は13%となり、北海道や九州・沖縄からの入学があった。

⑥ 退学者の低減

退学率の低減についてはクラスアドバイザー（担任）、アシスタントアドバイザー（副担任）及び学年主任を中心として個人相談など様々な努力を行い、本年度の退学率は昨年度より減少したものの、例年より増加傾向になった。退学理由は、学生生活不適合が4割を占めた。健康上の理由は、全て心の不調であった。このことを踏まえ、従来行っているスクールカウンセラーや家庭との連携を取ることに加え、早期退学を防ぐために、入学前の登校日においてレクリエーションを取り入れ、早期から友人を作る環境づくりや入学前ドリルによる基礎学力向上に向けた取り組みを開始した。今後は各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、退学率低減を目指すことが引き続きの課題である。

⑦ 自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局）」に基づき当校教職員全体で実施し、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んだ。

学校関係者評価に関しては学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価内容を校長に報告した。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、教育課程に反映し、結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築し、教育の質の向上に努めた。

⑧ 地域連携等

社会貢献として、動物愛護週間中央行事の屋内行事「動物愛護フェスティバル」及び屋内行事「2023年動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」に参加し動物看護体験やペットお悩み相談ブースなどを設置して、愛玩動物看護師の啓発活動を行った。また、ボランティアクラブが公益社団法人日本動物福祉協会 新東京支部の保護猫の世話及び公益財団法人日本動物愛護協会の譲渡活動支援をした。さらに、毎年恒例となっている近隣3社が協力して行う近隣清掃ボランティアに教職員が参加した。

課題と解決方策

- 本年度の学生募集については、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことから、従来と同じ対面での実施が可能となった。対面での説明会が対象者の不安解消につながる効果が高いので、今後も力を入れる。さらに、遠方からの参加者にも学校を知ってもらうため、今後も並行してWEBも活用していく。
- 退学者については、各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、退学率低減を目指すことが喫緊の課題である。そのために、学校説明会にてカリキュラムを十分ご理解していただけるような説明を心がける。さらに、入学前教育で行う入学前ドリルにて基礎学力を高め、入学予定者が最初の授業から万全の態勢で学びを開始できるように入学前からのフォローを行うとともに、合格者登校日にてリクリエーションを組み込むことにより、人間関係構築を図り、早期退学を防ぐ。
- 保護者とクラスアドバイザーとの面談については、希望制で随時行った。また、成績不振の学生には、クラスアドバイザーから保護者への連絡を行い、保護者のバックアップを得られた。今後も保護者と連携を取りながら学生支援を行い、指導をしていく。
- 施設の老朽化については、随時、法人本部管理部と相談の上、補修・修繕を行う。
- 教育環境整備として、検査実習室のリニューアルを行った。今後も代替教材の導入や実習器具の更新等を計画的に行い、教育体制を維持していく。
- 愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のために、入学前教育として、入学前ドリルを合格者全員に配布し、高校までの基礎学力を高めた。愛玩動物看護師国家試験対策として、模擬試験の定期的な実施、試験対策講座の実施、苦手分野の強化対策及びICT教育の一環として学習支援ツールの導入をした結果、国家試験受験者のうち、92.6%が合格した。今後も愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のために、教職員一丸となって指導を続ける。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神 「生命への畏敬」、「職業人としての自立」に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得した優れた人材を養成する。 ・ 3つのポリシー アドミッション・ポリシー <ol style="list-style-type: none"> 1.本校の建学の精神及び教育理念に共感する者。 2.動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生社会を目指す者。 3.動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。 4.愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者。 カリキュラム・ポリシー ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目(選択科目を含む)の3科目群からカリキュラムを構成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1.教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。 2.専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。 3.専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。 ディプロマ・ポリシー 修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士(文化・教養専門課程)の称号を授与する。 <ol style="list-style-type: none"> 1.本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。 2.動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。 3.人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。 4.動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。 ・ 国家資格である愛玩動物看護師をはじめとし、NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の Animal Health Technician(動物衛生健康技術師)、Dog Grooming Specialist(犬の美容師)、Cat Grooming Specialist(猫の美容師)、Companion Dog Trainer(家庭犬のしつけ訓練士)、Canine Rehabilitation Therapist(犬の理学療法士〈基礎〉)等の6つの資格の取得を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛玩動物看護学科では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養い、専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<ul style="list-style-type: none"> 時代とともに変化する社会のニーズを的確に把握できているか。教育理念が業界や社会のニーズを基に設定されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念・目的は、学校案内に、育成人材像は学則第1条〈目的〉「ヤマザキ動物専門学校が育成する学生像は、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得した優れた人材を養成する。」と規定している。 3つのポリシーをホームページで公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学内で周知するためにパンフレット、シラバス等で周知を図る。 	学校案内、専門学校ホームページ、ヤマザキ動物専門学校学則
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<ul style="list-style-type: none"> 育成人材像が業界や社会のニーズを反映し、目指すべき教育目標が明確になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 建学の精神として、「職業人としての自立」を掲げている。 動物看護・グルーミング・トレーニングを総合的に学ぶことができる。 国家資格である愛玩動物看護師をはじめとし、NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定 Animal Health Technician (動物衛生健康技術師)、Dog Grooming Specialist (犬の美容師)、Cat Grooming Specialist (猫の美容師)、Companion Dog Trainer (家庭犬のしつけ訓練士)、Canine Rehabilitation Therapist (犬の理学療法士〈基礎〉)等の6つの資格の取得を目指した。 豊富な企業実習・学内実習を実施し、技術の修得に努め 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の市場が右肩上がりから横ばいに転じる中、動物看護の市場を見据えた将来構想を策定する。 	学校案内、専門学校ホームページ、学校説明会パワーポイント

		た。		
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念や教育目的・育人人材像の周知をどの程度図っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3つのポリシーを、ホームページ、パンフレット、シラバスに掲載し、周知を図った。 入学年次のオリエンテーション及び創始者記念礼拝時に自校教育を実施した。 カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年便りに学校の教育理念及び校風を記載し、学生に配布し、更なる周知を図る。 ホームページ、パンフレット、シラバス等に掲載し、周知をはかる。 	学校案内、募集要項(アドミッション・ポリシー)、専門学校ホームページ
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的視点で、学校の将来構想を定めているか。学校の将来構想を教職員及び学生・保護者等に周知しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中長期構想委員会専門学校部会において、将来を見据えた中・長期計画策定をした。 将来構想を理事長ミーティングや各種委員会、各部ミーティングを通じて周知した。 学生や保護者へはホームページや学校行事、学年便り等を通じて情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年後、10年後の将来構想を策定し具体化に努める。 	中長期構想委員会議事録、各種委員会議事録、事務部ミーティング議事録、学年便り

基準2 学校運営

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> 新年度を迎えるにあたり、非常勤講師も交えた教職員会議を開催し、新年度の運営方針、事業計画を周知するとともに各科目担当者間での打ち合わせを行った。 教育部ミーティング及び事務部ミーティングにおいて、運営方針・事業計画等を教職員に周知した。 学校関係者評価委員会において、教育方針・目的を検討した。 教務委員会において、教育課程の編成に関する事項を審議し、意思決定をした。その結果は、教育部及び事務部のミーティングや議事録にて、情報共有した。 人事、給与に関する規程等は法人本部により整備されている。 前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定した。 イントラネット(サイボウズ)及び学校事務支援システム(スクールリーダー)により、業務の効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務については法人本部の要請を受け予算を提出している。 前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定している。

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針・目的に沿った運営方針が設定されているか。運営方針・事業計画等が明文化され、教職員に周知されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新年度が始まる前に、教職員会議を開催し、非常勤講師も交え、新年度の運営方針、事業計画を周知するとともに各科目担当者間での打ち合わせを行った。 各部でのミーティングにおいて、運営方針や事業計画等を周知した。 学校関係者評価委員会において、教育方針・目的を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて運営方針を補正・改善する。 優先順位をつけて対応する。 	令和5年度ヤマザキ動物専門学校事業計画書、事務部ミーティング議事録、教育部ミーティング議事録

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。また財務、教務、教員人事等に関する規則、会議及びそこでの決定システムは適正に整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務については法人本部の要請を受け予算を作成し承認を得た。 教務の意思決定は原則として教務委員会で行い、教育部及び事務部のミーティングや議事録にて、情報共有した。 学園の運営方針に沿った事業計画を策定した。 教務委員会において、教育課程の編成に関する事項を審議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて事業計画を補正・改善する。 各種委員会の適切な運用を図る。 	令和5年度ヤマザキ動物専門学校事業計画書、令和5年度ヤマザキ動物専門学校事業報告書、決算等の計算書類(過去5年間)、監事監査報告書(過去5年間)

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針・事業計画・予算を適正な手続きで決定しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校経営については、併設校の大学、専門職短期大学及び本校の3校に対し、学園本部主導の意思決定が行われている。学園本部・併設校の大学及び専門職短期大学と合同で行う部長会に校長、副校長、教育部長及び事務部長が専門学校として出席し、意見を反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校的に部長会等において発表し、実施に努める。 	ヤマザキ動物専門学校組織要項、令和5年度学園評議員一覧、学校法人ヤマザキ学園就業規則、学校法人ヤマザキ学園教職員給与規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員雇用規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員給与規程、学校法人ヤマザキ学園個人情報保護に関する規程、学校法人ヤマザキ学園ハラスメント防止に関する規程、学校法人ヤマザキ学園情報公開に関する規程
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか。現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか。各部署の役割分担、組織目標等を規定で明確にしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校の校長、副校長、事務部長及び課長職若干名が評議員として評議員会に参加した。 教務の意思決定は、原則教務委員会で行い、カリキュラム編成小委員会、毎月行われる事務部と教育部の連絡会等にて情報共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校の意思決定機関として、専門学校運営会議及び各種委員会の適切な運用を図る。 	ヤマザキ動物専門学校組織要項、令和5年度学園評議員一覧、学校法人ヤマザキ学園就業規則、学校法人ヤマザキ学園教職員給与規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員雇用規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員給与規程、学校法人ヤマザキ学園個人情報保護に関する規程、学校法人ヤマザキ学園ハラスメント防止に関する規程、学校法人ヤマザキ学園情報公開に関する規程、事務部ミーティング議事録、教育部ミーティング議事録

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 人事や給与体系等を整備し、適正に運用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 人事、給与に関する規程等は整備されている。 財務については法人本部の要請を受け予算案を提出した。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	学校法人ヤマザキ学園就業規則、学校法人ヤマザキ学園教職員給与規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員雇用規程、学校法人ヤマザキ学園専任教員給与規程、学校法人ヤマザキ学園個人情報保護に関する規程、学校法人ヤマザキ学園ハラスメント防止に関する規程

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。また財務、教務、教員人事等に関する規則、会議及びそこでの決定システムは適正に整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務については法人本部の要請を受け予算を作成し承認を得た。 教務の意思決定は、原則として教務委員会で行い、教育部及び事務部のミーティングや議事録にて情報共有した。 前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定した。 教務委員会要項において、教育課程の編成に関する事項を審議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて事業計画を補正・改善する。 各種委員会の適切な運用を図る。 	令和5年度ヤマザキ動物専門学校事業計画書、令和5年度ヤマザキ動物専門学校事業報告書、決算等の計算書類(過去5年間)、監事監査報告書(過去5年間)

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの運用に際してはデータ更新を適切に行うとともに、常に良好な状態で業務遂行ができ、個人情報等の漏えい防止に対応するためには、機器類等も含めたメンテナンス及びセキュリティ体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> イントラネット(サイボウズ)、学校事務支援システム(スクールリーダー)、Teams、OneDrive、Forms 及び zoom を活用し、業務の効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な学生指導に向けてシステムを安全かつ効率的に運用できるよう、検証・検討する。 	各種出力帳票

基準3 教育活動

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> 教務委員会、カリキュラム編成小委員会を設置し、充実を図った。 教育課程の編成や学習時間の確保は概ね成されている。 本年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、対面での授業を基本として実施した。 授業運営の中で、学園オンライン授業サイト Moodle や Forms を活用した。 ICT 教育の一環として学習支援ツール Monoxer を導入し、学習内容の定着を図った。 学校関係者評価及び教育課程編成委員会を実施し、卒業生・関連する業界・機関から意見や評価を頂いた。 各科目終了後に、授業評価アンケートにて在校生から授業内容についての意見を聴取し、担当教員へフィードバックした。 研修先訪問や求人先訪問にて聴取した研修生や卒業生の様子、指導内容に関しての要望等を教育部へフィードバックした。 カリキュラムの分野バランスを毎年見直し、教員組織を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 求人先訪問や卒業生から実際の現場での要望を聞き、授業内容に反映させている。 通常の授業の他に、定期的な模擬試験を実施した。 現場経験のある教員を多数採用し、授業の質向上を行っている。 教職員の研修・講習会終了後は、校内で報告会を行い、情報共有をした。

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成・実施方針は教育理念や建学の精神、カリキュラム・ポリシーに基づき、教務委員会及びカリキュラム小委員会において協議し、教務委員会において定めることとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務委員会及び進級判定小委員会を定期的に開催し、充実を図った。 ポリシーに基づいた愛玩動物看護師育成を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム編成小委員会を定期的に開催し、併せて教育課程編成委員会を行うことで、今後も問題の見直しや改善を行なっていく。 	履修ガイド&シラバス、教務委員会議事録、進級判定小委員会議事録
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<ul style="list-style-type: none"> 育成人材に対する業界からのニーズを基礎に到達目標を設定し、またそれに必要な学習時間を適切に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科毎の教育課程の編成や学習時間の確保は概ね成されている。 令和3年度入学生は愛玩動物看護師法附則第2条の規定に基づくカリキュラムを実施した。 令和4年度及び令和5年度入学生は愛玩動物看護師法第31条に準拠したカリキュラムを実施した。 新型コロナウイルス感染症等の感染予防を徹底し、対面での授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物看護師の国家資格に対応するため、「大学及び養成所において履修すべき科目及び履修すべき科目の到達目標」を基に今後も改善を行っていく。 	履修ガイド&シラバス

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は体系的に編成され、講義・実習等が有機的な接続性を持って編成されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度入学生より愛玩動物看護師の国家資格化に向け、愛玩動物看護師法附則第2条の規定に基づくカリキュラムを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物看護師の国家資格に対応するため、主務省より発表される情報を基に今後も改善を行っていく。 	履修ガイド&シラバス、令和3年度入学生対象 愛玩動物看護師法 附則第2条第1号イ及びロの規定に基づく指定科目、令和4年度及び令和5年度入学生

		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度及び令和5年度入学生は愛玩動物看護師法第31条に基づく指定科目を網羅するカリキュラムを実施した。 		対象 愛玩動物看護師法 第31条第1号の規定に基づく指定科目、ヤマザキ動物専門学校学則別表
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生・関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価及び教育課程編成委員会を実施し、卒業生・関連する業界・機関から意見や評価を聴取し教職員へ周知した。 授業評価アンケートにて在校生から授業内容についての意見を聴取し、担当教員へフィードバックした。 研修先・求人先訪問にて研修生や卒業生の様子や指導内容に関しての要望等を教職員へフィードバックした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価及び教育課程編成委員会にて積極的な意見を頂戴する。 学生からの要望に対し、真摯に対応する。 研修先や求人先からの要望に関しては、教育内容に反映できるものは反映する。 	学校関係者評価議事録、教育課程編成委員会議事録、授業評価アンケート
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法に関する方針を定めているか。教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の「動物医療コミュニケーション」授業内にて敬語の復習、ビジネス文書、手紙・Eメールの基本など社会人として必須となるコミュニケーションの基本を学ぶ。 2年次の「キャリアマネジメント」授業内にてキャリア教育を行った。 求人先訪問や卒業生から実際の現場での要望を聞き、授業内容に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの結果をもとに、常に新しい情報を取り入れながら指導を行う。 	履修ガイド&シラバス
3-9-4 授業評価を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> より良い、理解度を高めるような講義、実習の実施にはその授業に対する評価が有用で 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目終了後に Forms を利用したオンラインでの授業評価アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックし 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの内容をもとに、授業改善等に関する報告書を作成し、学生からの要望に対し、真摯に対応す 	授業評価アンケート

	ある。学生による授業評価により授業の質の向上に努めているか。	た。	る。	
--	--------------------------------	----	----	--

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> 科目ごとに成績評価方法を明らかにした上で適切に評価を行い、進級・卒業判定基準に従った運用を実施する。 成績評価や進級、卒業の基準を教務委員会において明確化し、進級判定小委員会において運用することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 履修ガイド&シラバスに進級、卒業に係る基準、科目ごとに成績評価方法の記載を行った。 基準に基づき、進級判定小委員会において、進級・卒業に関する判定を前期1回・後期1回開催した。 学園オンライン授業サイトMoodleやFormsを活用し、授業を実施した。 GPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理を実施し、修学度等の調査を効率的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基準を適宜見直し、より明確化することに努めるとともに、学生に対し周知を徹底する。 	履修ガイド&シラバス、教務委員会議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> 在校生のコンテスト等における受賞状況、研究実績等を把握しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休暇中に各自が研究した成果の展示を文化祭にて行った。また、学生全員が研究内容についてのパワーポイントを作成しクラス内で発表を行った。発表した際の評価を評価表にし、結果を学生に返却しフィードバックした。 文化祭にて日頃の実習の成果についてデモンストレーションを交えて発表した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の発表の機会についてさらに検討する。 発表するためのプレゼン指導が不足していた。プレゼンの授業の充足化を検討する。 	履修ガイド&シラバス

		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン力を高めるために、動物看護総合実習Ⅱの事後授業において、学生全員がパワーポイントを作成し発表を行った。 		
--	--	--	--	--

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする資格について、教務委員会において教育課程上に明確に位置づけることとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションやアッセンブリーアワーに「動物看護の資格と現状」という内容を組み込み、最新の情報を含め学生へ伝達し、資格取得可能なカリキュラムを整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛玩動物看護師の国家資格に関して主務省より発表される情報を基に今後も改善を行っていく。 	インフォメーション&ガイド、履修ガイド&シラバス、教務委員会議事録
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得のために、愛玩動物看護師国家試験対策小委員会を設置し、在学期間を通し包括的な指導体制とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次、2年次ともに資格取得に向けて学力の向上、定着及び意識づけを行った。 ・卒業年次はクラスアドバイザーが愛玩動物看護師指定講習会の進捗状況をこまめに確認し、アッセンブリーアワー内で一斉に愛玩動物看護師受験申込を行い、申込時に不備が起きないように配慮した。 ・卒業年次の対策として通常の授業の他に、愛玩動物看護師国家試験対策講座、模擬試験を行った。 ・模擬試験不合格判定者を対象とした夏期講習会や直前対策講座を実施した。 ・ヤマザキ動物看護大学及び 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を見失い、資格取得に対して消極的な学生に苦慮することがあるため、愛玩動物看護師国家試験対策小委員会とクラスアドバイザーが協力して対応を行う。 ・自ら学ぶ習慣をつけるために各年次にて模擬試験を実施し、できなかった問題の振り返りを実施する。 	愛玩動物看護師国家試験対策小委員会議事録

		ヤマザキ動物看護専門職短期大学とともに愛玩動物看護師国家試験対策委員会を立ち上げ、3校合同の模擬試験及び対策講義を実施した。		
--	--	--	--	--

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> 専修学校設置基準第41条の教員資格を満たし、授業に必要な知識、技能、人格を備えた教員を確保するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実務家教員を多く採用し、授業の質向上を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物看護師資格を取得した教員及び獣医師を確保する。 	カリキュラム表、教職員採用届
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 研修・講習会に参加し終了後は、校内で報告会を行い、情報共有をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的に研修・講習会へ参加し、教員の資質向上に努めていく。 	ヤマザキ動物専門学校FD・SD委員会要項、ヤマザキ動物専門学校教職員の研修に関する方針、令和5年度研修・講習会参加状況
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム内容に応じた技能を有する人物、人員配置になるよう組織体制整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム内容を毎年見直し、教員組織を整備した。 教員の組織における業務分担を実施し人員配置をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 優れた教員確保のマネジメントに努める。 カリキュラムに対応した教員の確保及び充実に努める。 	教学組織図

基準4 学修成果

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って相談・指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な就職活動が始まる前の2年次に個人面談を行い、一人一人に合わせた就職指導を行った。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、求人先に対して卒業生の在籍状況を調査しており、卒業生に回答を依頼した。また、卒業生の掲載記事をキャリア支援センターにてファイルをし、学生が自由に閲覧できるようにした。 ・ 新型コロナウイルス感染対策を取りながら、対面授業を実施した。 ・ 愛玩動物看護師受験者全員合格を目標とし、通常の授業の他に、模擬試験を実施した。受験年次だけでなく入学直後から資格取得を意識させるよう指導体制を工夫した。 ・ NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の6つの資格の取得を目指せるよう指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度は全卒業生に対しては 84%、就職希望者に対しては 98%の就職となり、目標を達成した。 ・ 卒業後の就職先への在籍調査では、平均勤務年数は 6.9 年であった。 ・ 卒業年次生の愛玩動物看護師国家試験の合格率は 92.6%であった。(全国平均 68.6%)。
--	---

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学校教育の主要な目的である当該分野への就職に対する支援が整備されているか。就職実績はどうか。 ・ 全卒業生に対しての 80%以上の就職、就職希望者のうち 95%以上の就職を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って相談・指導を実施した。動物業界では、非正規雇用の採用も多いが、本校では正社員採用を目指すよう指導した。 ・ 次年度の就職活動生となる2年次に対し、個人面談を行い、一人一人に合わせた就職指導を行った。 ・ 本年度は全卒業生に対しては 84%、就職希望者に対しては 98%の就職となり、目標を達成した。 ・ 卒業後の就職先への在籍調査では、平均勤務年数は 6.9 年であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も高い就職率を維持すると同時に、就職先とのミスマッチをさらに減少させる。 ・ より一層の卒業生の状況把握を行う。 	学校基本情報(令和3年～令和5年)、学校基本調査

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> 入学時より資格取得を意識づけし、就学期間を通して包括的な指導を行うこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物看護師国家試験受験者全員合格を目標とし、通常の授業の他に、模擬試験等の国家試験対策講座を実施した。受験年次だけでなく入学直後から資格取得を意識させるよう工夫した。 NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の6つの資格の取得を目標に指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> より高い目標を達成できるよう、学生の質、意識の向上に努める。 	愛玩動物看護師国家試験対策小委員会議事録

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、卒業生の就職先に対し、在籍状況を調査し、勤務状況を把握する。 雑誌で紹介された卒業生の活動記事等を保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物系求人先への求人発送時に、就職先に対して卒業生の在籍状況調査書を同封し、調査を行った。 3年次の就職活動地域及び就職実績のある求人先に対し、求人票 5,000 通を併設校3校合同で発送した。また、卒業生の掲載記事をキャリア支援センターにてファイルをし、学生が自由に閲覧できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 離職者数を詳細に把握し、早期退職を防ぐ。 	卒業生の在職状況に関する調査

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援センター職員が常駐し、就職相談ができる環境である。 3学年主任を委員長とした就職委員会を整え、実施した。これにより、キャリア支援センターとクラスアドバイザーとの連携をさらに深められる就職支援体制を構築した。 日常的に学年主任、クラスアドバイザー及びキャリア支援センターが情報交換をし、学生の微細な変化にも対応した。 クラスアドバイザー制度により、一人ひとりに適正なアドバイスを行っている。また、定期的にクラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによる打ち合わせを行い、学生情報の共有をした。 入学にむけた支援や入学後の支援として、学校独自の支援制度である山崎良壽記念奨学金制度、特待生制度、奨学金制度、学費分納・延納支援などの制度を整備している。 学校保健安全法及び本校学則第30条に基づき、各学年で年1回の健康診断を実施した。 年間を通して希望する保護者との面談の機会を設けた。 同窓会ではホームページでの情報発信を行った。 NPO 法人日本動物衛生看護師協会と連携を取り実施した国際セミナーは海外より講師を招聘し開催し、卒業生も含め、多くの参加者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的に就職活動を始める前である2年次にキャリア支援センターによる個別面談を行い、3年次には就職、進路が決まるまで何度でも相談を重ね、指導を行う方針である。 就職指導に関しては個別に面談し、社会人の適性に合わせた就職先を紹介している。 欠席者の把握を、サイボウズを使って学内で即日確認できる仕組みを作っており、教職員全体で学生の情報共有を行い、サポートをした。また、無断欠席者や欠席が続く学生に対してはクラスアドバイザーより学生へ連絡を取っている。また、長期欠席者に対してはクラスアドバイザー、学年主任が面談を行っている。 卒後教育に対する体制はNPO 法人日本動物衛生看護師協会と連携を取り実施する方針である。

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援センターと学年主任及びクラスアドバイザーが連携を取り、就職支援を行う。 事実上の就職対策である「キャリアマネジメント」はキャリア支援センターによる正科目であり、キャリア教育の授業内で 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年主任を委員長とし、就職委員会を開催し、キャリア支援センターとクラスアドバイザーとの連携をさらに深めた就職支援体制を構築した。 キャリア支援センターの職員が常駐し、就職相談ができる環境である。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学生が増え、一人一人の状況把握がしにくいことがある。そのために、教職員の学生対応のスキル向上に努める。相談内容によってはハローワークやカウンセラー等の紹介も検討し、幅広い支援体制を整える。 	履修ガイド&シラバス、インフォメーション&ガイド、就職委員会議事録

	も就職についての意識付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 本格的に就職活動を始める前である2年次に個別面談を行い、3年次には就職、進路が決まるまで何度でも相談を重ね、指導を行った。 就職委員会を開催し、日常的に学年主任、クラスアドバイザーと情報交換をし、学生の微細な変化にも対応できる体制を整えた。 		
--	------------------	---	--	--

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> 入学の志を全うできる教育支援体制ができているか。退学を防止する体制が取られているか。またそれらが学内で組織として構築されているか。共有されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、学校に登校することができない学生が増加している。そのため、欠席者の把握を、サイボウズを使って学内で即日確認できる仕組みを作り、教職員全体で学生の情報共有を行い、サポートをした。 無断欠席者や欠席が続く学生に対してはクラスアドバイザーより学生へ連絡を取り、長期欠席者に対してはクラスアドバイザー、学年主任が面談やメールでの相談を行った。 入学してからの認識のずれを防ぐために、入学試験後に受験生に対し、個別で入学前説明を行い受験生の不安を払拭するよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学年度により退学数のばらつきがあるためクラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーを中心に学生面談の強化を図る。 退学者増加に伴い、全校を挙げての退学率低下の対策を取る。そのために学生委員会や各部での情報共有や意識統一を行い教職員全員が当事者意識を持つことで学生の小さな変化に気付き、早めのケアを心がける。 学力不振による退学防止のため入学前ドリルを取り入れ、基礎学力の向上につとめる。 	学生数推移表(過去3年分)

		<ul style="list-style-type: none"> 入学後の交友関係構築のため、合格者登校日の際にレクリエーションを行い、入学予定者同士で交流できる試みをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的理由での退学者防止のために、入学前から学費納入に関する相談を検討する。 クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーだけが学生に対応するのではなく、教職員全員で学生をバックアップする体制を築く必要がある。 	
--	--	--	--	--

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 進路や進路以外に、学業に関する事項、本人の精神的な問題、さらにはハラスメント等に対する相談はクラスアドバイザーを中心に行う。相談内容により、校長、副校長、学年主任等を交えた相談を行い学生の不安を解消させる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスアドバイザー制度により、一人ひとりに適正なアドバイスをおこなった。 クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによる会議を行い、学生情報を共有した。 スクールカウンセラーを月2回利用できる。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してからは、基本的にメールでの予約制とし、カウンセラーと対面相談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスアドバイザーで対処できないケースはスクールカウンセラーの紹介を行う。個人情報保護の観点から、精神的な問題を抱えている学生の情報把握が難しい面がある。 	インフォメーション&ガイド、掲示物

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 経済的支援(公的、私的支援の奨学金制度、授業料減免制度等)が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 入学にむけた支援や入学後の支援を目的とした学校独自の支援制度として、山崎良壽 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的支援が必要な学生をクラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーが把握した 	学校案内、募集要項、学校法人ヤマザキ学園山崎良壽記念奨学金支給規程

	か。	記念奨学金制度、特待生制度、奨学金制度、学費分納・延納支援などの制度を整備している。 ・教務・学生課において日本学生支援機構奨学金制度の紹介をした。	場合、教務・学生課の奨学金担当者と連携を取り、制度利用の紹介を行う。	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	・学校保健法による健康診断や提携医療機関、相談体制が整備されているか。	・学校保健安全法及び本校学則第30条に基づき各学年で年1回の健康診断を実施している。また、欠席をする際の連絡を徹底することにより、学生の体調を把握している。	・個人情報への配慮面から入学生の持病等の事前把握が難しい面がある。 ・学生面談を通じて学生の健康面の確認や健康診断の結果の後追いと、欠席した学生への受診連絡の徹底強化を図る。	ヤマザキ動物専門学校学則、インフォメーション&ガイド、定期健康診断実施報告書
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	・学生生活における宿舍やアパート紹介等の生活全般に関する支援体制や相談体制が整備されているか。	・芦花公園、祖師ヶ谷大蔵、浜田山に契約している学生寮を、希望者へ紹介した。	・特になし。	学校案内、学生寮のご案内
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	・ヤマザキ動物専門学校学生委員会要項に則り、課外教育について学生委員会で審議する。	・どうぶつ愛護フェスティバルに参加し、シンポジウムの聴講及び希望者は会場でのイベントに参加した。	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されて以降、従来の課外活動が実施できるようになってきている。継続してオンライン参加を含む多様な活動を検討していく。	どうぶつ愛護フェスティバル学生掲示

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	・保護者との連携体制を構築する。 ・学生及び保護者等が不満を抱えている場合や学校側との	・年間を通して、希望する保護者との面談の機会を設けた。 ・必要に応じ、随時保護者面談または電話等での相談に	・面談を希望する保護者が少ないため、オンライン面談も受付を開始することで、相談しやすい体制を構築する。	学年便り

	意見の相違がある場合の相談受付方法を案内している。	応じた。		
--	---------------------------	------	--	--

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会のホームページにおいて情報発信を行うこととする。 卒業生の就職支援はキャリア支援センターが行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会ではホームページでの情報発信を行った。 卒業教育に対する体制はNPO 法人日本動物衛生看護師協会と連携を取った。 卒業生の再就職に関して対応した。 NPO 法人日本動物衛生看護師協会と連携を取り実施した国際セミナーは、海外より講師を招聘し開催した。卒業生も含め、多くの参加者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業教育及び学び直しは学校独自ではなく、同窓会とNPO 法人日本動物衛生看護師協会とが連携している。今後も協力し卒業生への支援体制の充実を図る。 オンラインでの学び直しを検討していく。 	同窓会ホームページ
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人日本動物衛生看護師協会主催の、犬のリハビリテーションセミナーに参加した。また、同協会と連携して、愛玩動物看護師国家資格に関する情報を知らせている。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで実施することにより、地方在住者が参加しやすい環境を整える。 	NPO 法人日本動物衛生看護師協会ホームページ
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 入学前の履修について学則に定めているか。 社会人の適性に合わせた就職指導が出来ているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育上有益と認めるときは、学則の定めにより、入学前の授業科目の履修等の認定を行うことができる。 就職指導に関しては個別に面談し、社会人の適性に合わせた就職先を紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人学生に配慮した就職指導を行う。 	学則

基準6 教育環境

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋谷キャンパス2号館の経年劣化している学習環境インフラについて、計画的な整備を行う必要があるため、年次計画で改善に取り組んだ。 ・ 1年次は動物看護総合実習Ⅰにおいて併設のコンパニオンアニマルセンターにて研修を行った。 ・ 2年次は動物看護総合実習Ⅱにおいて、3年次は動物看護総合実習Ⅲにおいて、外部の動物病院にて研修を行った。 ・ 学校防災に関する計画、消防計画を再編し、消防署へ届け出た。災害発生時における具体的行動のマニュアルに沿って、施設・設備の耐震化や備品の転倒防止などの安全管理を徹底した。 ・ 防災備蓄を年次計画で購入し、災害に備えた。 ・ 学生及び教職員は定期的に避難訓練を実施するなど、防災研修・教育を行った。 ・ 学校安全計画や学生の生命と学校財産を守るための防犯体制の整備をしており、薬品等の危険物の管理においては定期的にチェックを行い、安全管理を徹底した。 ・ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを見直し、適切に運用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年次計画で行っていた渋谷キャンパス2号館のエアコン及び換気設備の入替・交換を完了した。 ・ 研修先には、キャリア支援センター職員が事前説明をし、実習後可能な限りキャリア支援センター職員、CA、AA が訪問し学生の様子についてヒアリングを行った。 ・ 海外研修旅行及び国内研修旅行を実施した。

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の施設・設備等は、関連法令等の基準を遵守し、教育上の必要性に十分対応していなければならない。また、学生が安全に、快適に学習に専念できるよう施設・設備等のバリアフリー化を図ることが求められている。 ・ 施設・設備等は、日常的な管理に加え、老朽化等に備えて適切なメンテナンス体制を整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育環境整備として、顕微鏡の入れ替え、シリンジポンプの増設及び動物採血モデルを導入し、動物看護実習の充実を図った。 ・ 渋谷キャンパス2号館の経年劣化している学習環境インフラについて、計画的な入れ替えを図る必要があるため、年次計画で改善を図っており、本年度は壁紙の張替え及び学生トイレの改修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年次計画で行っている渋谷キャンパス2号館の学生トイレの改修を継続する。 ・ 愛玩動物看護師国家試験に対応するために、実習器具等の更新及び効果的な教材の導入を検討する。 	渋谷キャンパス1号館平面図、渋谷キャンパス2号館平面図、災害時備蓄品整備計画

	<p>備しておかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備等は更新・改修計画を策定し、計画に基づいて適切な時期に改築・改修・更新を行わなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 年次計画で行っていた空調設備交換については渋谷キャンパス2号館A棟1階を実施し、これによりA棟全館の交換が終了した。 コンピュータ教室のパソコンを増設した。 		
--	--	---	--	--

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にし、規定やマニュアルを定めるなど、実習期間等と連携し、十分な成果が上がるよう、教育体制・環境を整備しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次では、動物看護総合実習Ⅰにおいて併設のコンパニオンアニマルセンターにて、就職活動に先駆け就業体験を行った。 2年次では、動物看護総合実習Ⅱにおいて学外の動物病院での研修を行いレポート提出及び事後学習として研修報告会を実施した。 3年次では、動物看護総合実習Ⅲにおいて学外の動物病院での研修を行いレポート提出及び事後学習として研修報告会を実施した。 研修先には、キャリア支援センター職員が事前説明をした。実習後は、可能な限りキャリア支援センター職員、クラスアドバイザー、アシスタントア 	<ul style="list-style-type: none"> 動物看護総合実習の研修評価表について、学生の意欲向上と研修先の指導方法につながるよう、評価方法の改良を検討する。 動物看護総合の事前学習において電話対応、基本的なマナー、礼儀作法、接遇等の指導については、クラスアドバイザーと連携して指導する。 キャリア支援センター職員、教員が研修先を訪問し、研修状況を聴取し、事前学習の改善を検討する。 海外研修旅行、国内研修旅行及び海外短期留学については、国内・国外の情勢を加味し実施を検討する。 	<p>履修ガイド&シラバス、実習生受け入れのお願い、実施計画(実施概要)、企業実習に関する協定書、覚書、動物病院評価書、動物病院研修項目、動物看護総合実習Ⅱ実習先リスト、動物看護総合実習Ⅲ実習先リスト、日程表、誓約書、動物看護総合実習レポート</p>

		<p>ドバイザーが訪問し学生の様子についてヒアリングをした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外研修旅行及び国内研修旅行を開催した。 		
--	--	---	--	--

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にし、規定やマニュアルを定めるなど、実習期間等と連携し、十分な成果が上がるよう、教育体制・環境を整備しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルに沿って、施設・設備の耐震化や備品の転倒防止などの安全管理を徹底した。 学生及び教職員は定期的に避難訓練を実施するなど、防災研修・教育を行った。 防災備蓄を年次計画で整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全保健計画、消防計画、災害時対応マニュアル等を学生及び教職員が周知徹底するよう引き続き努める。 学内に限らず、学外実習等の安全管理体制も整える。 防災備蓄物品管理の管理を定期的に行い、災害時に使用できる状態を保つよう取り組む。 	<p>学園施設管理責任者一覧表、渋谷キャンパス1号館平面図、渋谷キャンパス2号館平面図、災害時備蓄品整備計画</p>
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> 薬品等危険物の管理を適切に行うとともに、学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備するなど学校の安全対策を講じなければならない。特に授業中に発生した事故等への対応については、マニュアルを策定して、教職員はもとより学生に対しても周知徹底しなければならない。 学外実習、海外研修時等の災害及び事故については、 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画や学生の生命と学校財産を守るための防犯体制の整備を毎年見直している。薬品等の危険物の管理においては定期的にチェックを行い、安全管理の徹底に努めた。 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを見直し、適切に運用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全保健計画、防犯体制の整備マニュアルに沿って運営を行う。 海外研修旅行や国内研修旅行実施の際には担当職員を明確化し安全管理体制の整備を心掛ける。 	<p>学園施設管理責任者一覧表、渋谷キャンパス1号館平面図、渋谷キャンパス2号館平面図、災害時備蓄品整備計画</p>

	<p>対処方法を適切に定め、教職員及び学生に対して周知徹底しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 万が一事故が起ってしまった場合に備えて、保険加入等の適切な処置を講じておかななければならない。 			
--	---	--	--	--

基準7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動において、本校の特徴や情報を具体的かつ分かりやすく提示するため、学校案内や募集要項の内容を明確化し、6月からの入試日程に合わせて前年度の3月中に発行し、早期の広報活動を実施した。 希望者が多い1都3県の高校を中心に、進学ガイダンスへの参加、高校訪問を行うことで、高校生と高校教諭に対し、本校の情報提供を行った。 本年度においては、年間で14回の来校型オープンキャンパスと8回のオンライン型オープンキャンパスを実施し、個別相談・施設見学希望者には個別に対応した。 入学試験では、総合型選抜試験のエントリーと出願を区別し、面接免除や内定等を出さない正規の実施方法に沿って行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より、コロナ禍による制限を解除し学生募集活動、入学試験を実施した。 18歳人口の減少という課題に対し、大学生や社会人などターゲットを広く設定し、リカレント教育を打ち出す広報を実施した。

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内や進学媒体、高校訪問等を通して、高等学校が必要とする情報を的確に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の通達を遵守し、学科編成を正確に伝えるべく、ホームページや郵送での告知を実施した。また、学校基本情報を公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物看護を教える併設の大学、専門職短期大学と教育内容の違いを明確化し、高校生にわかり易くする。 	学校案内、募集要項、学校基本情報
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校等の学事・進路指導日程に合わせ、学校案内や募集要項の発行、入試日程、オープンキャンパス日程 	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内や募集要項を3月までに発行し、順次志願者へ配布することにより、早期に広報活動を開始した。オープン 	<ul style="list-style-type: none"> 同分野他校との差別化を図るべく、オープンキャンパス等の内容を見直す。 	学校案内、募集要項

	を決定することで効果的な募集活動を行う。	キャンパス等は、対面方式を充実させ、オンライン方式を組み合わせ実施した。		
--	----------------------	--------------------------------------	--	--

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	・ 東京都専修学校各種学校協会の通達を遵守したうえで、募集要項へ明確に記載し、適切に運用する。	・ 募集要項通り適切に運用した。	・ 特になし	募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	・ 全入試区分において、面接を課し、個々の特徴や学力を把握することで授業の改善を図る。	・ 総合型選抜試験では面接の他、講習参加レポートを課し、入学者各々の適性を理解したうえで、授業のサポート及び改善に取り組んだ。	・ 事前提出による試験を見直し、個々の学力を把握できるように改善する。	募集要項

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	・ 学校の経営状況や支出により適切な学費設定となるように算定を行う。	・ 経営、収益状況より算定しており、適切に運用した。	・ 特になし	理事会・評議員会議事録、募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	・ 募集要項に明記している通りの対応を行う。	・ 募集要項に明記している通りの適切な対応を実施した。	・ 特になし	募集要項

基準8 財務

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経常的収支・臨時的収支ともバランスが取れており、財務について会計監査が適正に実施された。 ・ 予算編成後、より実態に合わせた補正予算を年度内に実施した。 ・ 情報公開については、ホームページで実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務については法人本部の要請を受け予算案を提出している。

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前受金は次年度の教育活動を行うための資産であり、貸借対照表上は負債として計上される。その負債額に見合うだけの現金預金(資産)を保有していることを確認し、財務基盤の安定性を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園全体として、収入が支出を上回っており、専門学校においても同様である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収入については安定的な学生募集を継続する。 ・ 支出については経年劣化による修繕費の他に、教育環境の充実に向けた取り組みを強化しつつ収支均衡のバランスが崩れないよう、心掛ける。 	学校法人ヤマザキ学園事業報告書、決算等の計算書類(過去5年間)、監事監査報告書(過去5年間)
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収支バランス等財務状況や運営について適切に自己評価を行い、改善が必要な場合は、改善計画を策定して、計画の履行に努めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正に行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	学校法人ヤマザキ学園事業報告書、決算等の計算書類(過去5年間)、監事監査報告書(過去5年間)

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算・収支計画は、短期・長期目標も実現に向けた実行計画に対応したものでなくてはならず、不適切な予 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園経営における健全な財政の維持と発展を念頭におき、教職員一丸となって、収入の積極的な確保、徹底した経費の削減を行うなど、財政の健全化に向けた取り組みを 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	事業計画書

	算配分、不要な投資があつてはならない。 ・ 学校法人は、予算編成過程や決定過程を明確にしなければならない	一層強化した。予算編成にあたっては、教育に対する投資と財政均衡を重視しながら、十分な調整を図り合理的な予算編成を行った。		
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	・ 学校全体としての予算・収支計画の作成・共有が適切に行われているか。	・ 予算編成後、より実態に合わせた補正予算を年度内に実施した。	・ 特になし	予算書、学校法人ヤマザキ学園会計及び経理規程

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	・ 会計の専門知識を有する第三者及び学園監事による会計監査が行われているか。	・ 適正に実施された。	・ 特になし	監事監査報告書、学校法人ヤマザキ学園監事監査規程

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	・ 公開方法並びに公開対象は適正か。	・ 財務情報公開についてはホームページにて公表した。	・ 特になし	財務情報公開ホームページ

基準9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価報告書の作成、学校関係者評価を実施し、報告書をホームページにて公開すると共に、教職員で情報共有した。 学校関係者評価で頂いたご意見は学校運営、教育へ活かした。 	<ul style="list-style-type: none"> 設置基準等不明確な事案については、適宜渋谷区私学主査に相談、指示を仰いでいる。

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	・ 法令等の遵守と適正な運営ができていることを、文書・記録等のエビデンスにより外部に説明できるか(説明責任を果たせるか)。	・ 法令等の遵守し、適正な運営を行った。なお、設置基準等において不明確な事案については、適宜渋谷区私学主査に相談、指示を仰いだ。	・ 特になし	私立専修学校指導監督の事項別基準、学校法人ヤマザキ学園文書取扱規程、学校法人ヤマザキ学園文書保存規定、学校関係者評価委員会議事録

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	・ 学生の成績だけでなく、すべての個人情報の保護に関する必要なルールが策定され、適切に運用されているか。	・ 個人情報の取り扱いについて教職員に対して意識づけを継続した。	・ 特になし	学校法人ヤマザキ学園個人情報保護に関する規程、学校法人ヤマザキ学園個人情報保護委員会規程、学校法人ヤマザキ学園特定個人情報取扱規程

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	・ 専修学校に求められる自己評価を実施し、その問題点を適切に改善しているか。	・ 専門学校等評価基準 Ver.4.0を使用した自己点検評価を実施した。	・ 評価項目への対応・改善を図る。	令和5年度ヤマザキ動物専門学校自己点検・自己評価表
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	・ 自己点検評価の結果を公開しているか。	・ 自己点検評価をホームページにて公開した。	・ 特になし	ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	・ 学校関係者評価を実施し、その問題点を適切に改善しているか。	・ 学校関係者評価を適切に行なり、学校関係者評価での意見は学校運営に反映させた。	・ 積極的にご意見を頂戴し、学校運営に役立てる。	学校関係者評価委員会議事録
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	・ 学校関係者評価の結果を公開しているか。	・ ホームページにて公開した。	・ 特になし	ホームページ

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	・ 学校の概要、教育内容、教職員等の教育情報を積極的に公開しているか。	・ 学校基本情報としてホームページで公開し、高等学校、来校者へは印刷物を配布した。	・ 特になし	学校基本情報

基準10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛玩動物看護師の地位向上や動物福祉活動の一環として、渋谷キャンパス1号館1階に公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部を設置している。本年度は同協会栃木支部・本部共同開催の犬猫譲渡会「ペットハッピーホームプログラム」への協力をした。 ・ 動物愛護週間中央行事の屋内行事「動物愛護フェスティバル」及び屋内行事「2023 年動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」に参加し動物看護体験やペットお悩み相談ブースなどを設置して、愛玩動物看護師の啓発活動を行った。 ・ ボランティアクラブが公益社団法人日本動物福祉協会 新東京支部の保護猫の世話及び公益財団法人日本動物愛護協会の譲渡活動支援をした。 ・ 毎年恒例となっている近隣3社が協力して行う近隣清掃ボランティアに教職員が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したところから中止もしくはオンラインにて実施されていたイベントが対面にて開催されるようになった。 ・ 渋谷区主催の地域交流を目的とした渋谷区防災フェス(もしもフェス)については、本年度は学生を見学させた。 ・ 渋谷区と災害時避難所ペット支援活動に関する協定を結んでいる。

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	・ 社会貢献や地域貢献を実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物を使用したセミナーや動物愛護団体の譲渡会等の施設貸出協力を行った。 ・ 教職員は渋谷キャンパス2号館の近隣3社と協力して、近隣清掃ボランティアを年2回行った。 	・ さらなる地域社会との交流を促進するために、学校文化祭、ボランティアの参加勧誘や地域に対する公開講座、教育訓練についても積極的な実施等を図る。	令和5年度地域清掃報告書、公益社団法人 日本動物福祉協会譲渡会チラシ

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
<p>10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生にボランティア活動の意義を伝え奨励し、職員もボランティア活動を実施しているか。 地域や身近でできる活動や災害支援などの組織規模の大きな活動などについて学生に対し情報提供を行うとともに活動への参加心得を周知徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して愛玩動物看護師の地位向上や動物福祉活動の一環として、渋谷1号館1階に公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部を設置し、犬や猫に対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」への協力をした。本年度もボランティアクラブが中心となって飼い主の事情で飼育ができなくなった猫の世話や譲渡活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動は本校のボランティアクラブを中心に活動してきたが、今後は教職員学生のみならず地域の方々と連携し積極的に実施していく。また、地域に対する公開講座、教育訓練についても検討する。 	<p>公益社団法人 日本福祉協会 猫譲渡ポスター</p>